6　　の離れわざ　　　　　　動詞③　上一段・下一段活用

侍七、八人をアならべ居させて、端に居たるより次第にＡ肩を踏みて、沓をはきながら小鞠Ｂを蹴られけり。その中に法師一人ありけるをば、肩よりやがて頭を踏みて通られけり。かくすること一両反終はりて、鞠をとりて、Ⅰ「いかがおぼゆる」とイ問はれければ、Ⅱ「肩に御沓の当たり候ふとはおぼえ候はず。鷹を手に据ゑたるほどにぞウおぼえ候ひつる」とおのおのＣ申しけり。法師はまた、Ⅲ「平笠を着たるほどの心地にて候ひつるぞ」とぞ申しＤける。

また、父の卿に具して、清水寺に籠られたりける時、Ⅳ「舞台の高欄を、沓はきながら、エ渡りつつ鞠を蹴ん」と思ふ心つきて、すなはち西より東へ蹴て渡りけり。また立ち返り西へ返られければ、見る者目をオ驚かし、色を失ひけり。

【本文チェック】

①　ア～オの動詞の、活用の種類を書きなさい。

　ア（　　　行　　　　　活用）　　イ（　　　行　　　　　活用）

　ウ（　　　行　　　　　活用）　　エ（　　　行　　　　　活用）

　オ（　　　行　　　　　活用）

②□Ａ～Ｄの語の品詞を書きなさい。

　Ａ（　　　　　詞）　　Ｂ（　　　　　詞）　　Ｃ（　　　　　詞）

　Ｄ（　　　　　詞）

③せりふのⅠ～Ⅳは誰の発言かを、次から選んで書きなさい。なお、本文は成通に関する逸話である。

　【成通・侍・法師・父】

　Ⅰ（　　　）　　Ⅱ（　　　）　　Ⅲ（　　　）　　Ⅳ（　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　沓〔１〕（　　　　）　　　　２　小鞠〔１〕（　　　　　）

３　頭〔２〕（　　　　　）　　　４　平笠〔５〕（　　　　　　　）

５　高欄〔６〕（　　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　居る〔１〕　（　　　　　　　　）

２　おぼゆ〔３〕　①（　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②（人から）思われる

　　　　　　　　　③思い出す　　④似る

問３　次の傍線部の意味として、現代語訳に入る最も適当なものを選べ。

１　立てめたる所の戸、すなはちただあきにあきぬ。（竹取物語）

　　閉めきってある場所の戸が、（　　　）ただもうすっかり開いてしまった。

　ア　そこで　　　イ　すぐに

　ウ　そのまま　　エ　次第に

　（　　　）

２　「ただ買ひに買はむ」と言ひければ、色を失ひて、「さる事申さず」と言ふ。（十訓抄）

　　「ぜひとも買おう」と（が）言ったので、成方は（　　　）、「そのようなことは申しません」と言った。

　ア　失望し　　　　イ　とても喜び

　ウ　顔色を失い　　エ　真っ赤になり

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 蹴る | る | 射る | 似る | 基本形 |
|  |  |  |  | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 活用の行・種類 |

問５　次の文中から上一段活用の動詞を抜き出し、その活用形も答えよ。

１　「ここに召して、率て参りたり」（宇治拾遺物語）

　　　抜き出し（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　に遊びてを見れば心楽しぶ。（徒然草）

　　　抜き出し（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　もも着ず、みなうちとけたれば、（源氏物語）

　　　抜き出し（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　成通は、自分の技をさまざまな場面で誇示していた。自分が人並外れた才能をもっていた場合、周りの人に対してあなたならどのような振る舞いをするか。

ア　腕を見せびらかす。

イ　誰にも知らせない。

ウ　親しい人にだけ見せる。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝バ・下二段　イ＝ハ・四段　ウ＝ヤ・下二段

　　エ＝ラ・四段　　オ＝サ・四段

②　Ａ＝名　Ｂ＝助　Ｃ＝動　Ｄ＝助動

③　Ⅰ＝成通　Ⅱ＝侍　Ⅲ＝法師　Ⅳ＝成通

問１　１＝くつ　　　２＝こまり　３＝かしら

　　　４＝ひらがさ　５＝こうらん

問２　１＝座る　２＝自然と感じられる

問３　１＝イ　２＝ウ

問４　（似る） （似）｜ に ｜ に ｜ にる ｜ にる ｜ にれ ｜ によ ｜ ナ行上一段活用

　　　（射る） （射）｜ い ｜ い ｜ いる ｜ いる ｜ いれ ｜ いよ ｜ ヤ行上一段活用

　　　（干る） （干）｜ ひ ｜ ひ ｜ ひる ｜ ひる ｜ ひれ ｜ ひよ ｜ ハ行上一段活用

　　　（蹴る） （蹴）｜ け ｜ け ｜ ける ｜ ける ｜ けれ ｜ けよ ｜ カ行下一段活用

問５　１＝率・連用形　２＝見れ・已然形　３＝着・未然形

問６　（例）ウ　自分の価値を確認したいので、他者に見せてはみたいが、よく知らない人にまで知らせると、ＳＮＳや動画サイトなどで拡散されるなどして、思わぬトラブルを被ることもあるから。

　　観点　ア・イの場合とどう違うかを考える。平安時代とは違う現代の事情に合わせて考えてみるとよい。

【現代語訳】

問３　１　閉めきってある場所の戸が、すぐにただもうすっかり開いてしまった。

　　　２　「ぜひとも買おう」と（俊綱が）言ったので、成方は顔色を失い（真っ青になって）、「そのようなことは申しません」と言った。

問５　１　「ここに呼んで、連れてまいりました」

　　　２　山や湿地に遊んで、魚や鳥を見ていると、心が楽しくなる。

　　　３　唐衣も汗衫も着ず、どの人もくつろいだ格好なので、